



## 概要

この章では、Cisco Nexus Dashboard Data Broker の概要について説明します。

- [Cisco Nexus ダッシュボード Data Broker について \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker のハードウェアおよびソフトウェア相互運用性マトリクス \(2 ページ\)](#)
- [NX-OS イメージの Python アクティベータ スクリプト \(2 ページ\)](#)
- [システム要件 \(3 ページ\)](#)

## Cisco Nexus ダッシュボード Data Broker について

アプリケーショントラフィックに対する可視性は、以前から、セキュリティの維持、トラブルシューティング、コンプライアンス、リソース計画のためのインフラ運用にとって重要でした。テクノロジーの発達と、クラウドベース アプリケーションの増加に伴い、ネットワークトラフィックの可視性の向上は必須の条件となっています。ネットワークトラフィックを可視化する従来のアプローチでは、コストがかかり柔軟性に欠けているため、大規模な導入環境のマネージャには負担が大きすぎます。

Cisco Nexus スイッチファミリと共に Cisco Nexus Dashboard Data Broker を使用することで、ソフトウェア定義型のプログラム可能なソリューションが実現できます。Switched Port Analyzer (SPAN) またはネットワーク テスト アクセス ポイント (TAP) を使用してネットワークトラフィックのコピーを集約し、モニタリングと可視化を行います。このパケットブローカリングアプローチは、従来のネットワーク タップやモニタリング ソリューションとは対照的に、シンプルで拡張性とコスト効率に優れたソリューションを実現するもので、セキュリティ、コンプライアンス、およびアプリケーション パフォーマンスのモニタリング ツールを効率的に利用するため大量のビジネスクリティカルなトラフィックをモニタリングする必要のある顧客に適しています。

さまざまな Cisco Nexus スイッチを使用できる柔軟性と、それらを相互接続してスケーラブルなトポロジを形成する機能により、複数の入力 TAP または SPAN ポートからのトラフィックを集約し、トラフィックを複製して、異なるスイッチにわたって接続された複数のモニタリング ツールに転送する機能を提供します。Cisco NX-API エージェントを使用してスイッチと通信する Cisco Nexus Dashboard Data Broker は、トラフィック管理のための高度な機能を提供します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker は、複数の分離された Cisco Nexus Dashboard Data Broker ネットワークの管理サポートを提供します。同じアプリケーションインスタンスを使用して、接続されているとは限らない複数の Cisco Nexus Dashboard Data Broker トポロジを管理できます。たとえば、5か所のデータセンターを運用しており、独立したソリューションをデータセンターごとに導入する場合は、モニタリングネットワークごとに論理パーティション（ネットワークスライス）を作成することで、単一のアプリケーションインスタンスを使用して、独立した5つの導入環境をすべて管理できます。



(注) リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker のハードウェアおよびソフトウェア相互運用性マトリックス

最新のマトリックスについては、関連する *Cisco Nexus Dashboard Data Broker Release Notes* を参照してください。

## NX-OS イメージの Python アクティベータ スクリプト

次の表に、Python アクティベータ スクリプトおよび対応する NX-OS イメージ名を示します。



(注) アクティベータ スクリプトは、<https://github.com/datacenter/nexus-data-broker> からダウンロードできます。



(注) **show guestshell** コマンドを使用して、Guestshell のバージョンを確認します。Guestshell のバージョンが2.2以前の場合は、Guestshell をアップグレードするか、スクリプトを破棄して再実行し、NDB の組み込みを開始します。

表 1: NX-OS イメージの Python アクティベータ スクリプト

| Python アクティベータ スクリプト ファイル名  | NXOS イメージ                   |
|-----------------------------|-----------------------------|
| NDBActivator4.0_9.3_plus.py | Cisco NXOS バージョン 9.3(1) 以降。 |

## システム要件

次の表に展開サイズごとのシステム要件を示します：

表 2: 展開サイズごとのシステム要件

| 説明                    | 小規模                                                                           | 中規模          | 大規模           |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------|
| CPU（仮想または物理）          | 6コア                                                                           | 12 コア        | 18 コア         |
| メモリ                   | 8 GB RAM                                                                      | 16 GB RAM    | 24 GB の RAM   |
| TAP および SPAN 集約のスイッチ数 | 最大 25 台のスイッチ                                                                  | 最大 50 台のスイッチ | 75～100 台のスイッチ |
| ハードディスク               | データ ブローカー ソフトウェアがインストールされているパーティションで最小 40 GB の空き領域が使用可能なこと。                   |              |               |
| オペレーティングシステム          | Javaをサポートする最近の 64 ビット Linux ディストリビューション。できれば Ubuntu、Fedora、または Red Hat が望ましい。 |              |               |
| その他                   | Java 仮想マシン 1.8                                                                |              |               |



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。